７・８月度「京都学ラウンジ　ミニ講座」（開催報告）

2020 年８月２０日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
０７５－７２３－４８３５

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ　ミニ講座」を開催しております。この度７月９日（木）～８月２０日（木）にかけ、舞鶴引揚記念館と共催で「シベリア抑留、引揚から舞鶴への生還―ユネスコ世界の記憶（世界記憶遺産）登録５周年」と題して、４回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

■ 日　　時　　２０２０年 7月9日・１６日・８月６日・２０日　いずれも木曜日
　　１３：３０～１４：３０　※8月6日のみ、１３：３０～１５：３０
■ 会　　場　　京都府立京都学・歴彩館 １階小ホール
■ 参加者数　　３６名（7月9日）、２９名（１６日）、５０名（8月6日）、
　　３８名（２０日）　合計　１５３名
■ 内　　容　　「シベリア抑留、引揚から舞鶴への生還
　　―ユネスコ世界の記憶（世界記憶遺産）登録５周年―」（全４回）

第１講　引き揚げと抑留と舞鶴港　　舞鶴引揚記念館学芸員　長嶺　睦
第２講　抑留を伝える記憶遺産～舞鶴への生還～　　同　　上
第４講　次世代へ語り継ぐ世界の記憶（世界記憶遺産）登録５周年特別企画
　　「東寺百合文書」と「舞鶴への生還」
　　舞鶴引揚記念館学芸員　長嶺　睦、京都学・歴彩館資料課　若林　正博
　　府立鴨沂高等学校京都文化コース生徒、舞鶴引揚記念館高校生語り部
第３講　史実の継承　世界へ未来へ　　舞鶴引揚記念館学芸員　長嶺　睦
　　舞鶴市国際交流員　レ・アルトゥル

※第３講は７月３０日に開催の予定であったが、緊急の設備点検に伴う臨時休館のため、８月２０に開催した。

■ 講座の様子

８月１５日、７５回目の終戦の日を迎えた。第二次世界大戦の終結、それは外地にいた多くの日本人が引揚げてくる事を意味した。同時に旧満州地域から多くの日本人がシベリア各地に移送された。舞鶴は、引揚げの指定港としてシベリアに抑留されていた多くの引き揚げ者を温かく迎え入れた。舞鶴市は、シベリア抑留等日本人の引揚げの記憶を「舞鶴への生還」としてユネスコ世界記憶遺産（現ユネスコ世界の記憶）に申請し、登録された。

７・８月のミニ講座は、ユネスコ世界遺産登録５周年を記念し、舞鶴引揚記念館と共催でシベリア抑留の史実、そして抑留の記憶を次世代へ継承する引揚記念館の取り組みなどを分かりやすく紹介する講座を実施した。第４講では、歴彩館と舞鶴引揚記念館とをオンラインで繋ぎ、引揚げの“記憶”を次世代へ語り継ぐべく活躍する舞鶴引揚記念館高校生語り部から語り部としての活動内容の報告があった。また、府立鴨沂高等学校京都文化コースの生徒からは、京都市内に残る戦争の記憶について報告があった。舞鶴と京都、それぞれの場所で戦争の記憶を語り継ぐ活動をする高校生がオンラインで交流も行った。

戦後７５年、戦争体験者がその記憶を“生”の歴史として語り継ぐことが困難になってきた。戦争の記憶を色褪せることのない“生々しい”記憶として次世代へ如何にして継承するのか、そして、それを実践する高校生にスポットが当たった本講座は意義深い講座となった。